

青森公立大学公開講座

2007年度大学院公開セミナー

# 「地域の産業・経済とその課題」

◆大学院の講義を体験してみませんか？◆

青森公立大学経営経済学研究科では、経営経済事象に関する高度な専門的知識・技能を有する専門的職業人の養成を目指し指導を行っています。ここの（大学院）教員が、これからの企業経営や地域経済について分かりやすく講義します。



## ◆受講料

無料

## ◆ところ

アウガ5階青森市男女共同参画プラザ研修室  
(いずれの回も)

## ◆対象・定員

一般の方 30名程度

## ◆申込

開催日前日までに受講を希望する講座名、開催日、住所、氏名（ふりがな）、性別、年齢、連絡先の電話番号を記入し、はがき、FAXまたはE-mailでお申込みください。

### はがきの宛先

〒030-0196 青森市大字合子沢字山崎153番地4  
青森公立大学地域研究センター公開講座係

### FAX送先

地域研究センター 017-764-1593

### E-mailアドレス

kouza@bb.nebuta.ac.jp



## ◆開催日程◆

第1回 9月11日(火) 講師：今 喜典(教授)

「青森県の産業と経済：現状と課題」

第2回 9月18日(火) 講師：杉浦裕晃(准教授)

「地域の視点から見た雇用問題」

第3回 10月9日(火) 講師：山本恭逸(教授)

「『コンパクトシティ青森』を考える」

第4回 10月16日(火) 講師：藤永 弘(教授)

「中小企業におけるキャッシュ・フロー経営」

第5回 10月23日(火) 講師：井上隆一郎(教授)

「グローバル競争時代の地域企業の戦略」

第6回 10月30日(火) 講師：趙 佑鎮(准教授)

「中小企業と現代マーケティングの潮流」

時間はいずれも18時30分～20時30分

# 主催：青森公立大学地域研究センター

☎017-764-1589

URL <http://www.nebuta.ac.jp/>

# 「地域の産業・経済とその課題」

第1回 9月11日（火） 18時30分～20時30分

「青森県の産業と経済：現状と課題」 講師：今 喜典（教授）

厳しい環境のもとにある青森県経済の発展を考えるため、産業と経済の現状を他地域との比較、過去からの経緯などに注目して多面的に検討する。これをもとに、急激に進むグローバル化・少子高齢化という構造変化をふまえた地域発展の課題を議論する。

第2回 9月18日（火） 18時30分～20時30分

「地域の視点から見た雇用問題」 講師：杉浦裕晃（准教授）

全国的に見て景気は回復傾向にあるが、景気回復状況は地域によって大きく異なることが知られている。地域ごとに歴史も風土も産業も異なることに注意して、雇用問題を地域の視点から考えてみたい。特に、青森県の雇用は不振が続いているが、その原因と対策について様々な視点から考察する。

第3回 10月9日（火） 18時30分～20時30分

「『コンパクトシティ青森』を考える」 講師：山本恭逸（教授）

新幹線青森延伸が2010年に迫る中、青森市のまちづくりの方向が今まで以上に重要になっている。こうした青森市の背景を踏まえ、コンパクトシティの理念と実際に取り組むに当たった課題について考える。

第4回 10月16日（火） 18時30分～20時30分

「中小企業におけるキャッシュ・フロー経営」 講師：藤永 弘（教授）

グローバル化、高度情報化、地球環境保全等企業を取り巻く環境の変化の中で、大企業のみならず中小企業を含めて、企業の合併・再編・再構築等が行われている。また、企業経営は、従来の売上と利益を上げておれば企業の存続・発展のできた時代から、キャッシュ・フロー重視の経営への移行が求められている。ここでは、中小企業経営において重要な役割を果たすことが期待されている「キャッシュ・フロー経営」の理論と実践を具体的に論ずる。

第5回 10月23日（火） 18時30分～20時30分

「グローバル競争時代の地域企業の戦略」 講師：井上隆一郎（教授）

グローバル競争を災厄のように訴える地域企業は多いが、実は飛躍のための大きな機会だという事実を認識すべきである。安価な海外製品の洪水は自社の仕事の価値を見直してみる大変良い機会であり、グローバル市場は等しくオープンな市場を提供している。アイデアさえあれば青森の企業もハンデなき競争が可能なのである。革新の戦略を考える機会としてみてほしい。

第6回 10月30日（火） 18時30分～20時30分

「中小企業と現代マーケティングの潮流」 講師：趙 佑鎮（准教授）

マーケティング戦略の構築に必要な基礎理論をふまえつつ、中小企業に関係のある「ブランド」、「街づくり」、「戦略論」等の現代マーケティングの潮流について学び、市場からの発想を議論する。